

2022年12月8日

神様の言葉によって生きる

6年B組 石神花蓮

聖書：列王記上 17章 1-7節（旧約聖書 561頁）

昨年10月に教会の礼拝に出席した時、列王記にあるカラスとやもめに養われるエリヤの話を聞きました。預言者エリヤが神様からアハブ王に干ばつが起ることを告げるように命じられます。

追手を恐れたエリヤはヨルダンの東にあるケリト川のほとりに身を隠し、神様は鳥に命じてそこでエリヤを養うように言いました。

この箇所を読んだ時、何故神様はカラスに命じられたのか不思議に思いました。

カラスは狡賢い鳥として童話などで登場します。また、旧約聖書でも不浄な生き物として扱われています。

その上、カラスはとても貪欲な鳥なので「分け与える」ということはしません。しかし、神様はそんなカラスを他の動物と同じように扱い、エリヤを養うという役割を与えられました。

一方、エリヤは水も食料もない、荒野に一人で逃れ、ただカラスを通して命を繋いでいました。

もし、私が荒野に隠れるように言われ、エリヤと同じ状況になったら、「どうして私がこんな目に合わなければならないんだ！」と嘆き、一日も経たない内に荒野から出てきてしまうでしょう。

物に溢れた現代の日本で暮らしている私達は時にそれがいかに恵まれているかということを忘れがちです。カラスがエリヤのためにもってきてくれる食料も、普段私達が食べているような美味しいものではないでしょう。そんな状況下にあっても、エリヤは神様を心から信じ、忍耐強く生きながらえました。私達も荒野の様な状況に立たされた時こそ、神様を必要とします。神様の言葉に従って生きることで生活が苦しくなったとしても、神様を信頼し、必要とする人は不思議と守られるのだということをこの箇所を通して感じました。

いつも神様が共にいること、助けを必要としている時に必ず導いてくださることを心に留めて、神様の御言葉に従って生活していこうと思いました。

クレモナ国際ヴァイオリン製作学校

-CREMONA Scuola Internazionale di LIUTERIA- 入学予定